

県少年選手権は、昭和47年が第1回大会

『2001年宇宙の旅』という映画が1968(昭和43)年にアメリカで公開されたが、特に変わったことは起こらずに長崎県軟式野球界も21世紀を迎えた。

全日本軟式野球連盟は、正しい少年野球の普及と育成をはかる目的で昭和43年にその組織化に乗り出し、それらチームを対象とした都道府県大会やブロック大会開催を指導した。

長崎県軟式野球連盟は昭和46年8月に、少年2部(中学生)に長崎市内4チーム含む9チームと、学童2チームによる県大会を開催。翌47年に県中体連と長崎新聞社との共催による『長崎県少年軟式野球大会』が始まった。

開会式の模様は当日の夕刊に、試合の詳細は翌日の長崎新聞に掲載されたりし、大会に臨む選手たちには気合の入れようも違った。



ちには気合の入れようも違った。

昭和61年第15回大会から20チーム以上が参加して盛況を極めていたが、昭和59年から横浜スタジアムで全試合開催の『全日本少年軟式野球大会』の長崎県予選会には県中体連との関係で第1回大会から参加チームが少なく最多は昭和60年の8チーム。平成11年は2チームで翌年は0となり県予選会が開催されなかった。

県中体連との協議で平成13年第18回大会から支部代表が参加するようになったが、同時期開催の郡市中体連大会との関係から全支部参加にはまだ課題が残っている。

全日本少年大会で県代表が2年連続決勝戦進出

横浜スタジアムでの全国大会に出場したのは平成25年第30回大会までにわずか3チーム。九州2枠の関門はあったが晴れ舞台は遠かった。

S.61	波佐見クラブ	初戦敗退
H.15	島原二中クラブ	初戦敗退
H.17	小佐々中クラブ	初戦敗退

ところが平成26年第31回大会に出場した波佐見中が全国4勝を挙げて優勝すると、翌年の日野中(佐世保)も決勝戦進出し準優勝の栄を受けた。

<b>第31回大会◆波佐見中学校</b>	<b>第32回大会◆日野中学校</b>
【一】 10-5 いわき松風クラブ(福島)	【一】 2-1 立命館慶祥中(北海道)
【二】 6-1 善通寺東中(香川)	【二】 4-3 比企フェニックス(埼玉)
【準】 6-2 岐阜フェニックス(岐阜)	【準】 3-0 益田東中(鳥根)
【決】 4-0 明豊中(大分)	【決】 0-4 豊見城中(沖縄)



平成26年 第31回全日本少年軟式野球大会優勝の波佐見中学校

中体連の全国軟式野球大会で優勝した相浦中

年代は前後するが日本中学校体育連盟(中体連)主催の昭和61年第8回大会に九州2チームで出場した佐世保相浦中の全国優勝も県軟式野球史に書き留めておかなければならない。

◆第8回全国中学校軟式野球大会◆			
九州大会	【一】 3-2 (沖縄)具志川中	全国大会	【一】 6-2 (岡山)琴浦中
	【準】 3-2 (熊本)鏡中		【二】 2-1 (福島)勿来一中
	【決】 2-3 (鹿児島)川内中央中		【準】 8-6 (愛知)刈谷東中
			【決】 3-2 (和歌山)日高中

他にもう一つの大会。全日本少年大会が始まる前の昭和50年から55年までの6年間に、全軟連と中体連の共催で全日本少年野球大会が京都、横浜、大阪、横浜(第4～第6回)で、開催されたが中体連が別に全国大会開催するため中断となった。

その6回開催された全国大会(24～22チーム)に九州4枠で大村の玖島クラブ(第1回で初戦敗退)と、佐世保相浦クラブ(第3回で1勝)も県中学軟式野球全国大会史に記しておく。

夏が終わり、新チームとなった中学生球児にも全国大会の感動を与えようと、高校野球のセンバツ同様に文部科学大臣杯の全国春季大会が平成22年春から始まった。毎年、静岡県草薙球場をメインに全国から32チームが集結。夏の横浜スタジアムは16チームで九州枠2(沖縄除く)であるが、春の大会は沖縄含む8県で5チーム参加。これまでに二回戦止まり。

チビツ子の甲子園と、ガールズベースボール

小学生を対象とした全日本学童軟式野球大会が各都道府県代表参加となったのは昭和62(1987)年第8回大会から。これまでの最高位はベスト8が3回。一回戦から3勝してのベスト8は平成22年第30回大会で7年ぶり四回目の出場した戸尾ファイターズ(佐世保)のみ。同チームは三回目出場の平成15年にも二回戦からの登場で2勝してのベスト8がある。

昭和47年に始まった『長崎県少年軟式野球大会・学童の部』も4チーム参加でスタートし、現在は20チーム超えの大会。

学童チーム内に軟式野球に興味を持った女子選手が増えてくるなか全軟連では平成25年に第1回NPBガールズトーナメントを東京で開催(30チーム)。長崎県選抜の『ビクトリア長崎』は準優勝した千葉なのはなガールズに2-25のスコアで敗れたが軟式野球の楽しさを味わった。29年までに四度出場しているが、まだvictory(勝利)の白い花は咲いていない。

中学生女子が対象の全国大会も平成28年から京都で開催。2年続けて出場の、お姉ちゃん「ビクトリア長崎」の白い花もまだ全国では蕾だが熊本市で毎年開催の女子中学生九州大会の25年大会は雨と日没のため3-3で沖縄と優勝を分けると、3年後の28年第6回大会では

<b>第6回全日本女子中学生九州大会</b>	
【一】 4-0 Crescendo(福岡)	
【準】 7-6 暴れん坊ガールズ(熊本)	
【決】 2-0 鹿児島県選抜	

大輪の白い花を咲かせた。



平成26年 第6回女子中学生九州大会で優勝のビクトリア長崎

市町村合併で県連盟の支部組織が一つ減少

昭和26年に郡市対抗(現県選手権)大会が始まった当時は県下10地区。その後、独立や分離を経て昭和57(1982)年に島原南高の単独で16支部が確立され、平成16(2004)年までの23年間は西日本大会や高松宮賜杯県大会は16支部参加のトーナメント表で二日間日程を消化していた。

時には不参加支部が発生した大会もあったが、平成2年11月17日に雲仙・普賢岳が噴煙を上げ、半年後の5月20日に溶岩ドームが出現。崩落や火砕流が発生し6月3日午後4時8分に大火砕流がふもとの水無川に沿って襲いかかり消防団員や警察官に地元農業者など計43人が逃げる間も無く犠牲に。島原地区の野球チームは野球大会どころでは無くなり、しばらくは各県大会を不参加した。

長崎県は平成16年2月末日まで8市9郡(71町村)であった。17市郡のうち対馬の上県、下県の2郡を1支部として16支部を形成していたが『平成の大合併』で北高来郡(支部)が消滅して、15支部構成となった。

16年3月1日	対馬市を新設	17年10月11日	南高来郡7町で雲仙市を新設
"	壱岐市を新設	18年1月1日	南高来郡有明町が島原市に編入
16年8月1日	五島市を新設	"	北松浦郡2町が松浦市と合併
"	新上五島町を新設	18年3月31日	南高来郡8町で南島原市を新設
17年1月4日	西彼杵郡6町が長崎市に編入	"	北松浦郡2町が佐世保市に編入
17年3月1日	北高来郡4町と西彼1町が諫早市と合併	22年3月31日	北松浦郡江迎町、鹿町町の2町が佐世保市に編入
17年4月1日	北松浦郡2町が佐世保市に編入		
"	西海市を新設		
17年10月1日	北松浦郡3町村が平戸市と合併		

上表の結果、北松浦郡には佐々町と離島の小値賀町が残ったが、県連盟支部組織としては旧北松浦郡で構成していた『県北支部』の一般と学童で支部組織を継続。中学は2校のみとなるため、佐世保支部に加入している。

また旧南高来郡16町で組織していた『南高支部』は、雲仙市と南島原市の2市を統合し『県南支部』となった。

長崎市に隣接する西彼杵郡2町(長与、時津)には一般チーム登録が無く、学童は西海支部に属し、中学5チームは特例により中学チームだけの支部登録としている。

「悲報!」 県連重鎮と相次いで別の別れ...

昭和61年より県連盟二代目理事長の平井清光氏が闘病のため福島孝俊に三代目バトンを渡した2か月後の平成19年2月21日に肝臓ガンにより73歳で他界した。平成15年秋の叙勲では『旭日双光章』を受け、県スポーツ史や県高校野球史なども編集。生前の功労を称えて、県軟式野球選手権大会と長崎市民早朝野球大会では最優秀選手に値する『平井清光賞』を設けて選手に授与している。



松浦継義初代連盟会長の遺志により当時県議会議員の伊藤一長氏が会長就任したのは平成元年。県議を3期務めて平成7年5月に長崎市長となった。3期目任期満了市長選中の平成19年4月17日の午後8時前。市内遊覧を終えて長崎駅前選挙事務所前で暴漢に背後から銃撃され、翌日未明に胸部大動脈損傷により大量失血死した。享年61歳。



三菱重工長崎とアイケン医院が西日本選手権ベスト8

これまでに中央大会での活躍記事は親和銀行に関するものが多かったが、古豪の三菱重工長崎や新鋭のアイケン医院の活躍ぶりに触れてみる。平成9年に始まった『西日本選手権大会』で三菱重工長崎とアイケン医院がベスト8進出した。

第2回大会は平成10年に佐賀県で開催。県予選会決勝で親和銀行を4-3で下した三菱重工長崎は2試合を勝ってベスト8。翌年も出場したが初戦敗退して、2年ぶり三回目の13年は二回戦から登場したベスト8。

10年	【一】	5-0	石田紙器(鳥取)
	【二】	3-0	和歌山県庁
	【準々】	0-1	山陰合同銀行(島根)
13年	【二】	6-1	チップチップBBC(沖縄)
	【準々】	1-2	佐藤薬品工業(奈良)

天皇賜杯全日本大会では平成12年第55回北海道大会が5年ぶり8回目の出場で初の2連勝してベスト8進出。三回戦のセントラル硝子戦は延長14回の死闘をモノにした。

【二】	1-0	松下電工(津津工場)(三重)
【三】	2-0	セントラル硝子(株)宇部(山口)
【準々】	0-1	テルウェル九州(熊本)

県選手権大会においては親和銀行6連覇後の平成7年から19年までの13年間で11回決勝進出。だが親和銀行に四度、ソニー長崎には初優勝を許し、優勝したのは2年連続含む6回。大会2連覇は平成12年第50回大会。初戦は被安打1の2投手継投。南申野球部とソニー長崎戦は小森幸徳と森賢一が連続ノーヒットノーラン。親和銀行と2年連続7回目の決勝対決

では2-2の九回裏一死三塁にサヨナラ勝ちし12回目優勝。30番は布村正樹監督。



平成8年西日本1部大会でベスト4のアイケン医院は翌年に県A級昇格。10年天皇賜杯全日本に初出場で初戦突破。16年と18年の2大会は初戦で優勝チームに0-1惜敗。西日本選手権大会は4回(15、17、18、21年)出場し、18年に初勝利。21年は二回戦からの登場。準々決勝で大会3連覇達成の大阪市信用金庫に敗戦のベスト8。

【一】	2-0	徳島
【二】	15-0	和歌山
【準々】	5-0	香川
【準】	1-4	福岡

【二】	1-0	大津赤十字病院
【準々】	0-2	大阪市信用金庫

平成20年第58回県選手権大会は長崎国体を6年後に控えチーム力強化のためA級4チームが推薦出場。アイケン医院は一回戦からの試合を、1-0、4-0、8-0と無失点。最終日の三菱重工との準決勝と、初の決勝戦進出した舩田グループもその年の大分国体で県選抜のエースを務めた松尾亮(32)が完封(1-0、3-0)。

決勝は1安打残塁0の27人で仕留めた。

同チームは平成26年第4回九州都市対抗決勝戦で、長崎県同士の親和銀行に勝利した初優勝(後述)。27年第19回西日本選手権予選会リーグ3連勝で五度目の西日本大会出場(1-2延長12回・広島日野自動車)。28年天皇賜杯県予選決勝戦準優勝を花道に、その年限りで県登録から消えている。



国体で大健闘の長崎県選抜チーム

全国知事会の要望により、国体における軟式野球660人3部門が1部門だけとなり、平成20年第63回大分国体から一般AとBが統合され一般32チームだけになった。

国体が一巡した昭和63年から平成19年までの20年間に長崎県軟式野球は親和銀行が四度出場(三回目に準優勝)ただけで国体においては低迷が続いていた。

長崎がんばらば国体も6年後に控えており、国体改革年の平成20年から長崎県選抜チームを編成して九州ブロック国体に臨むと一年前から本国体に出場した。

20年	九州	[代]	2-0	鹿児島リコー
	大分	[一]	4-2	(栃木)富士通小山
		[二]	2-3	(大分)オール大分
21年	九州	[代]	0-5	オール大分
		[復活]	7-0	鹿児島県選抜
		[第5代]	0-3	西部ガス北九州(福岡)
22年	九州	[代]	1-0	延長12回=福岡サニクリーン
	千葉	[一]	3-4	延長23回=(福岡)セーレン(株)
23年	九州	[代]	0-4	西部ガス北九州(福岡)
		[復活]	1-0	戸上電機製作所(佐賀)
		[第5代]	1-7	オール大分
24年	九州	[代]	1-2	福岡サニクリーン
		[復活]	5-6	鹿児島相互信用金庫
25年	九州	[代]	1-0	沖縄県
		[一]	2-1	(山口)セントラル硝子(株)宇部工場
		[二]	2-1	(山形)公德会佐藤病院
		[準々]	6-1	(石川)コマニー(株)
		[準]	2-1	(奈良)佐藤薬品工業
	[決]	0-1	(大阪)大阪市信用金庫	

22年第65回千葉国体。セーレンは前年天皇賜杯の覇者。延長15回を終って0-0。照明設備のある球場に移動して試合再開。小雨降る中、22回に福岡が3点挙げ試合が決まったかに思われたが、四死球から1点返した二死後に同点とした。23回に与えた1点を返せなかったが林田大輔(親和銀行)が一人で投げ抜いた。この大会は雨天順延で優勝は千葉と京都で分け、三位決定戦も山口と埼玉で分けた。

2年おいた25年東京国体。山口との初戦は延長12回にサヨナラで決めた。二回戦の山形も五回に先制された直後に同点とし3投手の継投で迎えた延長11回に四球や敵失で得た一死満塁に四球押し出し。大会三日目の準々決勝では3年前(21年)天皇賜杯準優勝のコマニー(石川)に対し初戦で12回完投し、次の日も三番手で登板した今村賢(重工)が二回に1失点だけの完投勝利。打線も三回に3点奪い逆転すると、六、七回に加点して6-1の快勝。

会場移動しての準決勝は国体で常連の佐藤薬品工業。天皇賜杯でも19、20年に連覇している強豪に桑原隆史(親和銀行)が最終九回1失点だけの完投。初回と六回に同僚の北田亮祐と吉田光太のタイムリー打で挙げた2点を守り切った。大会最終日の決勝戦は今村が登板。九回一死後、連安打と四球の満塁に投じた148球目のツーシームの打球が三塁前で弾んでサヨナラとなった。



長崎がんばらば国体の三位決定戦は雨中戦

県選抜チームは、翌年の平成26年第69回長崎国体に三菱重工長崎の中村勉(36)が監督、親和銀行の古賀太一(30)が主将に就き、両チーム8名ずつの16戦士が地元開催国体に臨んだ。

(三菱重工長崎)今村賢②、岩見諒③ 坂田電徳③、山口幸④、大山駿⑥ 植杉真行④、稲澤和也②	(親和銀行)桑原隆史①、吉田光太⑨ 野村健太郎⑩、磯祐一郎③、 北田亮祐⑤、鳥越章弘⑧、永田勝敵③
---	---

支援コーチとして両チーム監督の香田正宣(38)と林田大輔(33)もベンチ入りして選手たちにとっては頼もしい存在。

[一回戦]	(静岡)静岡ガス(株)	010 000 000 00	1
10/18:鹿町	長崎県選抜	000 001 000 01x	2

先発の今村賢(21)は二回に先頭三塁打を浴び一死後に遊ゴロで失点。その後も四度の得点機会を与えたが後続を斬って無得点に抑えた。長崎は六回に内野安打と四球の一死一三塁に二ゴロの間に追いつくと、延長10回のサヨナラ機を逸した後の11回裏。敵失、二塁打、四球の一死満塁に好投の今村に代えて代打の永田勝敵(親:33)が選んでサヨナラ四球押し出し。

[二回戦]	長崎県選抜	120 000 000	3
10/19:吉井	(滋賀)青樹会	001 000 000	1

初回二死後から安打と右飛失で先取点の長崎は、二回に野村健太郎(親:30)の右二塁打から磯祐一郎(親:23)、植杉真行(三:21)の連続適時打で加点すると、桑原隆史(31)が五回までと岩見諒(三:23)、今村のリレーで2点差を逃げ切った。

[準々決勝]	(千葉)京葉銀行	000 000 000	0
10/19:吉井	長崎県選抜	010 000 00x	1

京葉銀行は2年前の岐阜国体で準優勝。天皇賜杯全日本では前年優勝でこの年は準優勝。その強豪相手に初日は延長11回完投し、前試合では5人の打者に15球を投げた今村が連投。

五回の1安打に抑え奪三振1の打たせる投法で89球完封すると打線は7安打。決勝の1点は二回先頭安打を連続犠打で三進後に9番の植杉が左適時打し同期同僚の今村を援護した。

[準決勝]	(埼玉)旭鋼管工業(株)	002 020 000	4
10/20:佐世保	長崎県選抜	000 000 000	0

埼玉の左腕中村に対して七回まで四球1走者のみ。八回から登板の佐藤からも先頭死球後に連続二ゴロで初めて三塁を踏んだが後続無く。九回一死後の左直が初めての外野への打球となった二死後に、六回から守備に入った稲澤和也(三:22)の中前打でノーヒットノーランだけは免れた。

埼玉は先発・桑原(~四回)と今村から14安打と良く打った。三者凡退が四回と七回の二度だけで、五度の得点機を作り二度を实らせて決勝戦に進出した。

[三位決定戦]	(北海道)六花亭	001 000 01	2
10/21:平戸	長崎県選抜	010 000 00	1

順位決定戦は七回戦。延長八回は無死満塁制。

長崎は二回。先頭・北田亮祐(親:25)の右中間三塁打から山口幸(三:24)の中適時打で先制。だが先発の岩見が三回二死後に連続の二、三塁打を浴びて同点とされ、八回は無死満塁制。

七回から雨がひどくなり足元もゆるくなってきた。五回から登板の今村が先頭打者に投じたと同時に三走がスタート。打球は三塁寄りの今村の前に転がったがバックホームができずに生還を許す。続く二者を投ゴロと三飛に仕留め八回裏…。

長崎はこの試合2安打の山口から。三ゴロ本封と三飛で二死。二回戦で二塁打を放っている野村の当りは一塁寄りの投ゴロ。雨でぬかるんだ足元が悪く一塁送球が内側に逸れ、野村はヘッドスライディングしたが、間一髪のタッチアウトで雨中の三位決定戦は終わった。

## 【第九章】 九回の裏 ◆～平成29(2017)年

長崎県軟式野球史も九回の裏に突入。スコアは8-8の同点。延長戦となるか…、サヨナラゲームとなるか？。

平成20(2008)年からの話題を年表風にまとめてみると、

20年	<ul style="list-style-type: none"> <li>西日本1部大会でブルーエンジェルが8強入り(県勢10回目)</li> <li>国体改革で一般1部門となり長崎県選抜チームを編成</li> <li>大分国体で長崎県選抜は一回戦突破</li> <li>県選手権は共に決勝戦初進出のアイケン医院と舩田グループ</li> <li>県審判員親睦大会が第31回の対馬大会をもって終焉</li> </ul>
21年	<ul style="list-style-type: none"> <li>第31回西日本1部大会を長崎、諫早、大村の4会場で開催</li> <li>4チームの長崎県勢でALL生月が1勝を挙げたのみ</li> <li>全日本学童大会で彦岐の盈科(えいか)クラブが8強入り</li> <li>西日本選手権大会でアイケン医院が8強入り(県勢3回目)</li> </ul>
22年	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベースコーチにもヘルメット着用が義務付けられる</li> <li>文部科学大臣杯全日本少年春季大会が始まる</li> <li>県A級登録が3チームとなる(ソニー九州が活動休止)</li> <li>全日本学童大会で戸尾ファイターズが4戦しての8強入り</li> <li>高松宮賜杯1部のたぢばな信用金庫は九州で敗退したが宮崎が口蹄疫問題で辞退し代理で全国大会出場し1勝を挙げた</li> <li>千葉国体で長崎県選抜は延長23回の死闘も福井に3-4敗退</li> <li>60回記念選手権大会に最多の23チーム参加(優勝=親和銀行20回目)</li> <li>親和銀行は前年より2年間、県内大会で無敗</li> <li>県民体育大会で離島の新上五島町が初優勝</li> <li>全日本少年春季県予選と県中学生新人戦大会が分離される</li> </ul>
23年	<ul style="list-style-type: none"> <li>学童と中学の投手に投球回数が制限される</li> <li>九連会長杯で親和銀行が準優勝</li> <li>県少年選手権大会がこの年から全試合ビッグN会場使用となる</li> <li>日本スポーツマスターズに県勢として島原クラブが初出場①</li> <li>A級の九州都市対抗軟式野球大会が始まる</li> </ul>
24年	<ul style="list-style-type: none"> <li>県選抜女子野球(学童、中学)チーム『ビクトリア長崎』を結成</li> <li>県A級登録が4チームとなる(南原クラブが昇格)</li> <li>全日本少年春季大会に県勢初出場の西彼中が1勝を挙げる</li> <li>一般の全国大会(九州ブロック含む)では1勝も挙げられず</li> </ul>
25年	<ul style="list-style-type: none"> <li>九連会長杯で三菱重工長崎が準優勝</li> <li>国体リハーサルの第35回西日本2部大会を国体5会場で開催</li> <li>県から4チーム参加し長崎Canonが4強、島原WaterSeven8強。</li> <li>西日本1部大会に18年ぶり出場の舩田グループが3戦して8強</li> <li>県少年選手権で早岐中学校が大会初の2連覇達成</li> <li>九州女子中学生決勝は雨と日没により3-3で沖繩と分ける</li> <li>県学童選手権で優勝の戸尾ファイターズが地元開催の王貞治杯九州学童で3戦しての準優勝</li> <li>長崎県選抜チームが三度目出場の東京国体で準優勝の快挙</li> </ul>
26年	<ul style="list-style-type: none"> <li>野球規則で三塁への偽投が禁止される</li> <li>西日本1部大会初出場のJF長崎漁連野球部が1勝挙げて8強</li> <li>同チームは高松宮賜杯1部全日本にも初出場したが初戦敗退</li> <li>3月の全日本少年春季大会に初出場(初戦敗退)した</li> <li>波佐見中学校は8月の全日本少年大会で4勝あげて優勝</li> <li>長崎がんばらんば国体で県選抜チームが第四位</li> <li>第4回九州都市対抗の決勝戦は愛健医院が親和銀行に1-0</li> <li>親和銀行が県選手権で24回目の優勝は二度目の6連覇達成</li> <li>県民体育大会は長崎国体開催のため休会</li> </ul>
27年	<ul style="list-style-type: none"> <li>3月の全日本少年春季大会に初出場(初戦敗退)した</li> <li>日野中学校が8月の全日本少年大会で4戦の準優勝</li> <li>高松宮賜杯2部県初優勝の勝本北星は九州突破し全国1勝</li> <li>B級の舩田グループが7年ぶりに県選手権大会の決勝戦進出。</li> <li>九州都市対抗大会で県勢2連覇を達成した親和銀行</li> </ul>
28年	<ul style="list-style-type: none"> <li>九連会長杯で15年ぶり四回目優勝の親和銀行が</li> <li>11月の九州都市対抗でも2連覇(県勢では3連覇)</li> <li>中体連軟式野球の波佐見中学校が九州4勝の全国大会で</li> <li>1勝挙げたベスト8</li> <li>九州女子中学生大会でビクトリア長崎が3戦して優勝</li> <li>県学童選手権三回目優勝の戸尾ファイターズが王貞治杯で優勝</li> <li>3年連続高松宮賜杯1部県優勝の長崎漁連が全国で初の1勝</li> <li>27年と28年の2年間に公認スポーツ指導員養成講習会を実施</li> <li>2年間合計で79名が資格を取得</li> </ul>
29年	<ul style="list-style-type: none"> <li>西彼中学校が5年ぶり二回目の全日本少年春季大会で1勝</li> <li>長崎市役所OBが県勢二度目出場の日本マスターズで初勝利</li> <li>チーム単独に戻った国体で三菱重工長崎が本国体出場①</li> <li>西日本選手権で2勝した親和銀行が大会初の8強(県勢4度目)</li> <li>大野中学校が全日本少年春季九州大会で敗者復活第5代表に</li> </ul>
30年	<ul style="list-style-type: none"> <li>県連盟評議員総会で県連盟ホームページ開設が承認される</li> </ul>

この中からいくつかの話題をピックアップして『長崎県軟式野球史』に彩りをつけてみる。

## 8年間で二度の県選手権準優勝した舩田グループ

上五島支部所属の舩田グループが長崎県大会初参加したのは、手持ちの資料によれば昭和58年第5回西日本1部予選会。県大会での優勝は平成7年の第17回同大会が初優勝で二度目が18年後の平成25年第35回同大会。高松宮賜杯の県優勝は無いが準優勝が二度(西日本1部では三度)。天皇賜杯では14回出場しているが2勝したのが一度。国体予選会はベスト4が六回と健闘。

県選手権大会においては昭和63年初出場以来13回出場し、7回目出場の平成19年第57回大会までは同年ベスト4の1回が最高位だった。翌年の第58回大会は国体強化対策のためA級4チームが推薦出場した大会の三回戦で親和銀行を倒し決勝に進出。それまでの県選手権でA級に勝

【一】	2-1 南有馬クラブ
【準々】	4-2 親和銀行
【準】	7-6 長崎県支基金
【決】	0-3 愛健会アイケン医院

ったのは、前年二回戦(準々決勝)のソニー九州。0-0無死満塁制の延長九回裏に3点挙げて、サヨナラ勝ち(7-6)したぐらいだった。決勝戦はA級のアイケン医院に初優勝をさらわれた。

翌年の二回戦でもアイケン医院から点を挙げられず(0-2)、60回記念大会も二回戦突破した準々決勝の三菱重工長崎に対しても0-5。23年は二回戦で島原市役所に星を落とすと、その後の3年間はブローズ、若松クラブ、クローズの後塵を拝した。

4年ぶり12回目出場した27年第65回大会。同じ離島の箱崎クラブに五回コールド勝ちして波に乗った。準決勝で対したTEAM橋口は前試合で親和銀行の大会

【一】	9-1 箱崎クラブ
【二】	4-1 大島造船所
【準】	3-0 TEAM橋口
【決】	0-7 三菱重工長崎

7連覇を阻んだ(3-1)チーム。一、二、四回と着実加点して二度目の決勝戦進出も、17年連続41回目出場の三菱重工長崎には七回コールドに沈み、16回目の優勝を見届けた。

県選手権二度目準優勝の2年前。平成25年西日本1部予選会には二回戦から登場し同予選会では18年ぶりの優勝。西日本大会ではベスト8進出。

7年	【一】	2-6 湖陵ウイングス(島根)
25年	【一】	4-2 グラナリエス(広島)
	【二】	4-3 北条クラブ(鳥取)
	【準々】	1-6 愛車道(山口)

また平成の大合併後の平成22年県民体育大会で新上五島町が長崎(県支基金)、松浦(ベイスターズ)、平戸(ALL生月)との試合を無失点(1-0、1-0、6-0)で勝ち進み、大村(TEAM橋口)も倒して(3-1)、単独初優勝(平成18年は雨天で4チーム優勝)したチーム選手の中にも、舩田グループの主力がいたのでは…？。

## 九州都市対抗大会で長崎同士の決勝戦

アイケン医院のことは八回裏の後半で触れたが、平成26年第4回九州都市対抗大会の結果を…。

長崎国体が終わった10日後。親和銀行が県選手権6連覇達成する一週間前。北九州市で熊本と沖繩を除く6県からA級14チーム参加で開催。その県代表選考会はA級4チームによるリーグ戦で3連勝の三菱重工長崎が西日本選手権に。2勝1敗の親和銀行と1勝2敗の愛健医院が九州都市対抗に参加した。

県予選で親和銀行に敗戦(0-1)の愛健医院が逆スコアで優勝。

◆愛健医院	◆親和銀行
【一】 3-2 グランドコア(宮崎)	【一】 9-1 三愛ロジスティクス(佐賀)
【二】 5-2 黒崎播磨(開催地)	【二】 6-1 山九嶽北九州支店(開催地)
【準】 6-3 別府市役所(大分)	【準】 5-3 田中病院(宮崎)
【決】 1-0 親和銀行	【決】 0-1 愛健医院